

もものせん孔細菌病は総合的防除により被害を著しく軽減できる

りんご研究所

ももの難防除病害であるせん孔細菌病の被害は、薬剤散布、防風対策、発病枝等の伝染源の処分、袋かけなどの有効な防除法を総合的に組み立てて毎年継続することにより、著しく軽減できます。



成熟果の被害症状



②防風対策

せん孔細菌病の生活史

③枝ごと切り取って処分

4～5月：感染

二次伝染源

発病葉、発病果実

①薬剤散布
(開花直前・落花10日後・20～40日後)

一次伝染源
発病結果枝 (春型枝病斑)



4～5月
：細菌増殖

4～5月：感染

6～8月：感染

③枝ごと切り
取って処分

二次伝染源
発病新梢 (夏型枝病斑)



④6月下旬
までに袋かけ

9～10月：感染

①薬剤散布
(収穫後2回)

新梢の落葉痕など

11～3月：越冬

防除のポイント

①薬剤防除

ア「開花直前」及び「収穫後」(9月中旬とその2週間後)に I C ボルドー412の30倍液を散布
イ「落花10日後」にアグリマイシン-100の1,500倍液又はアグレプト水和剤の1,000倍液、「落花20～40日後」にマイコシールドの2,000倍液も1～2回散布

②防風対策

風を強く受ける地帯で多発するので、風上側に防風網を設置

③伝染源の処分

春型・夏型枝病斑の切り取り処分

④袋かけ

6月下旬の連続した降雨の前までに実施

⑤総合的防除を継続

せん孔細菌病は薬剤散布だけでは防除が困難であり、総合的防除を毎年継続することにより、果実の被害が1年ごとに低下します。

総合的防除による被害軽減効果

年次	発病果率 (%)	
	有袋果	無袋果
平成22年	53.3	92.6
平成23年	2.4	68.8
平成24年	0	23.3

(注) 調査場所：弘前市糠坪、調査品種：川中島白桃
調査時期：各年とも8月下旬
総合的防除：平成22年以降、以下の対策を実施
①有効薬剤の適期適量散布、②防風網の設置
③発病枝の処分、④毎年6月中下旬に袋かけ

お問い合わせ

りんご研究所・県南果樹部まで (Tel.0178-62-4111)